



水の恵みに感謝して

石巻市立蛇田小学校 6年 三浦 咲

世界中には、水道がなくて、小さな子どもでが1時間以上歩いて水をくみに行かなければならない国があります。今、私たちは、蛇口をひねるだけで水が出てくるとい、とても便利な生活をする事ができています。水を得るために、1時間以上も歩くということは、絶対にあり得ないことです。小学生ぐらいの子どもがそのようなことをしているということは、とても厳しい環境の中で生きている人がたくさんいるという現実なのです。水をくみに行くために片道1時間、往復だと2時間以上かかること。そして、行きは空の入れ物だけれども、帰りは満タンの重い水を持ち抱えていることを考えると、想像することもできません。おそらく、私たちならば、5分もしないうちに疲れ切ってしまう。このことを考えただけでも、水の大切さをもっと重く受け止めなければならないのだと思います。

自分の家の日常生活を振り返ってみても、水がなければ、当たり前前の生活が成り立ちません。水道の水が使えないということは、お風呂に入ることも、手洗いもうがいもできません。トイレにも困ってしまいます。洗車もできません。もちろん、洗濯もできません。食事もできません。何より水が飲めないということは、私たちの生命にも大きな影響が出てきます。学校生活でも同様のことが言えます。体育の学習の後に、水が飲めなくなります。プールで泳ぐこともできなくなります。理科の学習でヘチマやホウセンカの観察ができなくなります。メダカなどの生き物も飼育できなくなります。楽しみにしている調理実習もできなくなります。学校のトイレも使用できません。普通に考えれば、水が飲めない、水が使えないということは、こんなにも不便であることは、誰でも考えることができます。しかし、私たちは、あまりに当たり前前に思ってしまったので、水のありがたみや水の大切さを忘れかけているような気がします。

以前、海水を水道水にできるということを勉強したことがあります。もしも、海水を飲み水にするのであれば、海の環境も守らなければなりません。最近、話題になっているプラスチックなどを海に捨てたり、流したりすることは、しないほうがよいと思います。その他にも、雨水や汚れた水を機械を使って浄化して、飲料水にできるという新聞の記事を読んだことがあります。そのようなことから考えると、水道の蛇口から当たり前のように水が出てくるとい考えは、間違っているのかもしれない。というよりは、そのような意識は改めなければならないのだと思います。そのようなことを考えているときに、おいしい水を普通に飲んで、本当に良かったと思えるしゅん間です。

もちろん、考えただけでは何も変わりません。水の大切さや水の恵みについて考えたならば、次は実行に移さなければなりません。すなわち、小学生の子どもでもできることはないのかと、じっくり考えることです。とても簡単な考えですが、まずは無駄を省いて、節水をすることです。もっと分かりやすく言えば、水を流しっぱなしにしないということです。なぜならば、水も大切な資源なのです。水だって無限ではないのです。日常生活の中で、水を有効に使っている人もいます。雨水をためて、掃除用に使ったり、庭の草花に水をあげたりしている人もいます。水の再利用をしている人もいます。お風呂の水を使うのもその一例です。私たちの回りには、水の使い方を工夫している人がたくさんいます。これは節水ができているということになるでしょう。

今年もまた、暑い夏がやってきます。クラスの友達も私もプールで泳ぐことを楽しみにしています。いつもの夏と違うのは、水の恵みに感謝の気持ちを持って、プールで泳ぐことです。